

第4章

ことばの遅れを主訴とする子どもへの指導内容・方法

ーことばの教室担当者ワークショップからの検討ー

1. 目的

第3章では、7つの事例研究によってことばの遅れを主訴とする子どもの実態やことばの遅れに対する指導内容・方法について検討した。しかし、既に述べてきたようにことばの遅れを主訴とする子どもは多様であり、指導内容・方法も多岐にわたると考えられた。そこで、本研究では事例研究に加えて「ことばの遅れに関するワークショップ」を4地域で実施し、ことばの遅れを主訴とする子どもに対してことばの教室が行っている指導内容・方法についてより多くの情報収集を行った。ここでは、その結果について報告し、検討する。

2. 方法

(1) 手続き

本研究の研究協力者のうち4人が所属することばの教室研究組織（市レベル3か所と地域レベル（25市町村）1か所で、都道府県は全て異なる）に「ことばの遅れに関するワークショップ」の実施を依頼した。各ワークショップには、研究分担者が1名または2名が参加し、研究協力者とともにワークショップの運営を行った。ワークショップの参加人数は、合計91人であった。

ワークショップで収集した資料は参加者が記入したワークシート（提出は任意とした）と、グループ別協議で作成した記録であった。本稿では、参加者が記入にしたワークシートの記述内容を主たる資料とした。

なお、本ワークショップの実施と資料収集については、国立特別支援教育総合研究所倫理規定により倫理審査（24－8）を受け承認を得た上で実施し、参加者には個人情報の保護に留意することを伝えた。

(2) ワークショップの内容

各ワークショップは、1回約2時間から2時間30分で以下のように実施した。

- ①導入（20分）：研究分担者が研究の概要を説明し、参加者はワークシートを記入する。
- ②グループ別協議その1（50分）：5、6人のグループに分かれ協議を行う。各グループでは、参加者がワークシートに記入した事例の概要と現在の指導内容について説明し、グループで協議する内容を決定する。
- ③交流の時間（15分）：参加者が自由に移動しながら他のグループの協議内容を知る。
- ④グループ協議その2（30分）：各グループで決めた内容について協議する。
- ⑤全体協議（40分）：各グループのファシリテーターがグループの協議内容について全体に報告する。

ワークシートの内容は表4－1に示すとおりであった。

表 4-1 ワークショップにおけるワークシート（実物はA4用紙1ページ）

担当しているお子さんの中で、「ことばの遅れ」を主訴とするお子さん1人を選んで、以下のことを書いて下さい。

1. そのお子さんを一言で表すとすると、どのようなお子さんですか？

2. そのお子さんの乳幼児期のようす（生育歴）について記入して下さい。

(1) 保護者が「ことばの遅れ」を心配し始めたのはいつ頃ですか？ 歳 か月頃

(2) 「ことばの遅れ」について指摘を受けた健診や機関等について、全て○印をして下さい。

・ 1歳半健診 ・ 3歳児健診 ・ その他の健診（具体的に 健診）
・ 幼稚園 ・ 保育所 ・ その他（ ）

(3) 乳幼児期に「ことばの遅れ」以外で保護者が心配していたことや、健診や幼稚園・保育所等で指摘を受けたことはどのようなことでしたか？

3. そのお子さんの現在のようすや指導についてについて記入して下さい。

・ 学年 【年少・年中・年長・ 年生】 ・ 男 ・ 女

(1) 現在、そのお子さんに一番支援が必要なことはどのようなことですか？

(2) 上記(1)に対して具体的にどのような指導をしていますか？

(3) そのお子さんとのかかわりで、先生が課題に思っていることはどのようなことですか？

3. 結果の概要

上記ワークシートに記入された内容のうち、「3. そのお子さんの現在のようすや指導についてについて記入して下さい。」の「(2) 上記(1)に対して具体的にどのような指導をしていますか？」に対する自由記述の結果を整理した。その他の項目については結果の分析において参考資料とした。

4 ワークショップ全体で91事例について回答された。その学年別の内訳を表4-2に示した。これらの事例に対して記述された指導内容・方法については、次のような手順で整理した。3名の研究分担者がそれぞれ自由記述の結果を分類し、3名の分類結果を持ち寄って、一致するまで協議した。その結果、指導内容・方法について124件が抽出でき、8項目に分類できた。8項目とは、【表現する 伝える】、【理解する わかる】、【身体の動き】、【認知的側面】、【自信や意欲】、【他者とかかわる】、【教科学習】及び【その他】である。

表4-2 4つのワークショップで回答された事例の学年別内訳

年少	年中	年長	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	中1年生	合計
1人	15人	11人	12人	13人	10人	10人	12人	5人	2人	91人

4. 分類された指導内容・方法について

ここでは、指導内容・方法について分類した8項目について回答を整理する。多岐にわたる指導内容・方法の全体像を具体的に示すため全回答124件を以下に示す。

(1)【表現する 伝える】

この項目には41件の記述があった。これらはさらに「①伝える」「②ことばで伝える」「③構文」「④語彙」に分類できた。

①伝える (11)

- ・やりとりあそび(ごっこあそび)。児が選ぶ(自分の意志)という場面をつくる。おてつだい。一緒に何かをやりとげる(4歳児)
- ・見通しがきかないと気持ちの切りかえができないのでイメージをもてるようスケジュール表などを作っていく(5歳児)
- ・子どもの気持ちに共感的に言葉にしていく(5歳児)
- ・本児の好きな虫見つけ、魚つかまえを行う中で、一緒に同じ物を追う、二人でつかまえる。別につかまえアピールするなど、自分が行動を起こして、感じたことを相手に伝える、聞く。同じ思いをもつうれしさが味わえるようにして少しずつ興味、体験が増えるよう刺激を加えていくこと(5歳児)
- ・リラックスした状態で緊張感をもたない状態をつくること。本人が話すことを受け入れる(聞く)ことを大切にする(2年生)
- ・自分で決める(めあて、AかBか)。興味ある動物のプリントを読んでクイズ。少人数指導。伝える必要性のあるゲーム(3年生)
- ・ゲームやクイズ、好きなボールゲームなどをする。したことの話をしてもらう(3年生)
- ・追いかけて遊び。体をつかったダイナミックな動き(3年生)
- ・視覚に訴える(3年生)
- ・好きなことからさせたいと思い、ありコロちゃんのペープサート作り→会話につなげる。今やったことを5W1Hで文作り(5年生)
- ・相手に分かることばに言い換えて教える。やりとりを通して、本人の気持ちを引き出す(5年生)

②ことばで伝える (13)

- ・本児の思いを代弁していく(4歳児)
- ・やってほしいことを目でうったえた時に、具体的な言葉で教師が伝え(「○○?」)て

いくようにしている（4歳児）

- ・表現する心地よさを感じられるように、思いを受けとめたり、表現のモデルを示したりしながら、関係性を豊かにすること（4歳児）
- ・遊びの場を一緒に作れるような環境の準備。自己決定して実現できる場の保障（4歳児）
- ・インリアル的アプローチ、Q&A、5W1H（1年生）
- ・「いれて」「ぼくもやりたい」などの言葉を使ったかかわり（2年生）
- ・仲間と一緒に行動や遊びの時間の前にどうすることがよいかについてたしかめる（2年生）
- ・かんたんな絵カードをつかひながら時系列に並べて話をしてもらおう（4年生）
- ・構音指導（4年生）
- ・毎日朝食メニューを聞く、朝の会をじっくりとりくむ（5年生）
- ・スピーチ（個別＋小グループで）発表と質問（5年生）
- ・不快な気持ちを自分や物に当たらないように（中1年生）
- ・ことばの理解をうながすためのカードなどを使ったもの（中1年生）

③構文（3）

- ・本児の話した内容をフィードバックして文レベルの発話を促す。誤った話し方をした際のリフレクティング（5歳児）
- ・話を聞いて質問に答える→書く（2年生）
- ・二つのカードをつなげ文を作る、助詞と名詞をつないで文を作る、読み書き（2年生）

④語彙（13）

- ・本児の興味あるクワガタのオモチャをつかって、おいかけっこやごっこあそびの導入。対人への関心をもつような遊び（3歳児）
- ・本児の気持ちを代弁するような声かけをする（きもちいいね、たのしいね、うれしいね、びっくりしたね）（4歳児）
- ・ことば当てクイズ（絵カード）、イメージできることを言う、母も参加した簡単なルールのある遊び（1年生）
- ・遊びを取り入れた内容（すごろく、カードゲーム）（1年生）
- ・絵カードでお話をさせる。（2年生）
- ・絵カードを使って、ものを用意させる（2年生）
- ・音読、聞く力（ビンゴ）、クロスワードパズル、すごろく（ことば遊び）（2年生）
- ・自由会話（3年生）
- ・ことばをたくさんつけたやりとり（3年生）
- ・自分の経験の振り返りをさせる。こういうときはこういうことばをという方法で伝えている（3年生）
- ・国語取り出し指導。例）ごっこ遊びをした後、黒板に文章を書いてみる。会話パター

ンの習得（3年生）

- ・普段の生活や授業でわからない言葉は辞書や図鑑をひく、クロスワードパズルなどする（4年生）

（2）【理解する わかる】

この項目には17件の記述があった。

- ・相手の行動に注目してから動く遊び、待つ、並ぶなどを取り入れる（4歳児）
- ・教師や友達と一緒に遊んで思いがぶつかる機会や相手の思いを感じとるような機会を用意していきたい（5歳児）
- ・相手の思いを教師が言葉にして伝えていく（5歳児）
- ・思いを出させてから相手の状況や気持ちを知らせたり、相手の思いをきいた上で思いを主張できるようにする（5歳児）
- ・絵カード、ことばのやりとり（会話）（1年生）
- ・絵カード、言葉を正しく直す（1年生）
- ・ことばのクロスワード（2年生）
- ・手先は器用なので、はさみを使うこと、拗音△、字はきれい→カタカナへ（2年生）
- ・絵カードを使って、ものを用意させる（2年生）
- ・体を動かすことが大好きなのでいっしょに遊びながらルールを作っていく（3年生）
- ・カードを使っての文作り、心の安定（3年生）
- ・スリーヒントクイズ、ブラックボックスなど何かを連想させるクイズ、身近なことを話す中でことばを足していく（4年生）
- ・「いく・くる」「あげる・もらう」「おす・おされる」など実際の行動をとおしながら理解してもらう（4年生）
- ・助詞・構文指導（状況絵に合わせて）、話す、聞く、書く、読む（4年生）
- ・同年齢の男子とのグループ活動、話し合う、ルールを決める、それにしたがって遊ぶ（5年生）
- ・カード、仲間分け、ことば遊び、クロスワード（5年生）
- ・少人数グループによる活動（中1年生）

（3）【身体の動き】

この項目には8件の記述があった。

- ・身体を使っての遊び（おいかけっこ、トランポリン、ぶらんこなど）（4歳児）
- ・まずは、自分の体の使い方の理解につながるような、実際に自分の手、足、体を使う経験、抱かれる感じ、揺れる、つかまえられる、斜めの時の体の向き、登る、滑る等の経験を増やす（4歳児）
- ・体を動かす（4歳児）

- ・体を動かして遊べる環境。手先を使う遊び。できた自信（5歳児）
- ・片足立ち、踏み台昇降など感覚統合の視点を踏まえてのサーキットなど（2年生）
- ・指先を使うあそび（3年生）
- ・手先の訓練（動物工作、ひも結び）（4年生）
- ・手先を使うこと（6年生）

（４）【認知的側面】

この項目には11件の記述があった。

- ・ことば遊び、聞き分け、お店屋さんごっこ（1年生）
- ・読み聞かせ（1年生）
- ・ひらがな・・・意味づけして覚える。文字と絵をつなげて指導（1年生）
- ・粘土（指先）、指で空書き（背中書く）（1年生）
- ・数の学習のゆっくり指導（1年生）
- ・注意力や記憶力を伸ばすゲーム、しりとり、文字チップによる単語作り（2年生）
- ・絵カードを使って、ものを用意させる（2年生）
- ・身辺処理、分ち書きの文を読んで情報を入れる、テープにとって、聞いて文にする（3年生）
- ・パズル、迷路などで図形っぽい課題を必ず1つ（3年生）
- ・声に出して何度も読む（4年生）
- ・よくきこう、よく見よう（動物なき声、カルタ、すごろく）（5年生）

（５）【自信や意欲】

この項目には12件の記述があった。

- ・小さなことでも認めていくこと（4歳児）
- ・本児のレベルよりも少し簡単な課題で自信をつけさせる（4歳児）
- ・自分の思いをことばにして伝えられるようになるように教師との信頼関係を作り、話しやすい雰囲気にする。聞き直さない。先生聞いてなかったからもう一回教えて（4歳児）
- ・見る力→伝える力を育てる。自己肯定感を育てる課題（5歳児）
- ・少しの工程が分かってできる遊びを通して「こうしたらこうなった」と分かることを増やす→自分の手で経験できる機会の増加。体を動かして遊ぶことでできた実感を持つ（5歳児）
- ・すぐに対応する。イメージに合わせる（5歳児）
- ・語彙を増やす。人との関係を作る（1年生）
- ・本人ができることをとり入れる（達成感を持たせる）。短い時間の中でできること（2年生）

- ・理解できることばを増やす学習（なぞなぞ、カテゴリー別のことばのビンゴ、5 W1Hのカードゲーム、お話すごろく）、困ったときにことばでヘルプを言えること（ヒントカードの用意。相手が嫌な気持ちになることばの表作り）、他児との小集団指導の中で自分の気持ちを伝えることに自信を持たせる（5年生）
- ・自信を持たせる。活動的になるように。感情を表せるように（2人同時に指導して競わせる）（5年生）
- ・ゲーム性のある楽しい指導、カード、自由な時間の保障（5年生）
- ・本児のニーズを大切に「できた」「オレってすごい」と感じるような指導を目指しています（6年生）

（6）【教科学習】

この項目には5件の記述があった。

- ・ひらがな読み書き、算数、音読（1年生）
- ・個別で国語、算数の学習支援（2年生）
- ・国語算数を中心とした基礎的学習（1～⑫2年生レベル）（3年生）
- ・国語取り出し指導。例）ごっこ遊びをした後、黒板に文章を書いてみる。会話パターンの習得（3年生）
- ・言葉だけでなく視覚的なものを加味すると理解しやすいので、絵の入った本を読んでもらったり、「きくきくドリル」等で耳を鍛えたりしている（5年生）

（7）【他者とかかわる】

この項目には22件の記述があった。これらはさらに「①人とのかかわり」「②気持ちのコントロール」に分類できた。

①人とのかかわり(15)

- ・本児の興味あるクワガタのおもちゃをつかって、おいかけっこやごっこあそびの導入。対人への関心をもつような遊び（3歳児）
- ・対戦できるおもちゃで場を共有できるような活動（4歳児）
- ・ボーリングをして倒れた時に一緒に喜び合う。特定のおもちゃを出すと一人の世界に行ってしまうのでなるべく遠ざける。唯一追いかけてっこでは相手を意識して笑顔でやりたがるので追いかけてっこを沢山しています（4歳児）
- ・気持ちをことばにして伝え、思いを表す（4歳児）
- ・友達とかかわり合える遊び（4歳児）
- ・本児が目的を持ってとり組めるような活動を用意し、その中で教師と一緒に様子を見たり、行ってみたりして、「楽しい」「嬉しい」などの気持ちを一緒に感じられるようにしている（4歳児）
- ・教師のかかわりを心地よいと感じることが前提（4歳児）

- ・本児の好きなものを中心として、教師と簡単なやりとりをして遊ぶ（ケーキ、アイスクリーム）。本児の視界に入りながら話しかける（4歳児）
- ・本児の好きなごっこ遊びを通して、相手に思いやイメージを伝える（4歳児）
- ・本児の好きな遊びにとことん付き合い、遊びの楽しさを心と体で一緒に感じていくこと（5歳児）
- ・他児とのかかわりの中で気落ちを調整しながら、思いを言い合えるような遊び（5歳児）
- ・パターン化されたやりとりで気に入ったフレーズを使用し笑いあえる（5歳児）
- ・母親も含めてルールのあるあそび（5歳児）
- ・気持ちを代弁（5歳児）
- ・迷路、クロスワードを使いながら、ことばを引き出す（2年生）

②気持ちのコントロール(7)

- ・見通しをもたせてから、遊ばせるようにしたり、教師と一緒に遊ぶ中で、教師の気持ちに気づけたり、働きかけに応じることができた時や教師と一緒に遊んで楽しいと思えたりした時に、ほめたり価値づけたりするようにしています（4歳児）
- ・教師の思いや他児の思いを伝え、相手の思い等に触れる機会を作る。思いとちがった時に折り合いをつけられるように一緒に考えていく（4歳児）
- ・何をするのか、写真に撮り、スケジュールを理解できるように。（5歳児）
- ・拒否に対し本児の気持ちに添った上で要求を受け入れる（5歳児）
- ・担任の先生と密な連携（4年生）
- ・わらべうた、となえことば、昔がたり、お手玉投げ、木の棒投げ、受け取り（声を出しながら）、ビーズ通し作品、詩など（5年生）
- ・不快な気持ちを自分や物に当たらないように（中1年生）

(8)【その他】

この項目には8件の記述があった。

- ・構音指導（4歳児）（1年生）
- ・構音指導、口腔機能訓練、微細運動、粗大運動、呼気訓練など（1年生）
- ・呼気訓練（フワフワボール、ストローサッカー）（4年生）
- ・単音節では発音できるか？単語になると誤るので悩んでいる（4年生）
- ・一般的な指導（構音障害）（6年生）
- ・カレンダーワーク、隠したカードを記憶させる（4年生）
- ・本人の好む作業（お菓子作り、折り紙など）を通して、微細運動、色彩感覚、コミュニケーション力を育てる。自己選択・決定（6年生）

5. 指導内容・方法全体の整理

以上でまとめた8項目のうち、【その他】を除く7項目の相互関係について検討した。検討にあたっては研究分担者3名が合意するまで協議を繰り返し図式化した。その結果が図4-1である。

まず、指導内容・方法が、主として子どもの「表面に出やすいもの」に対するものか、「表面に出にくいもの」に対するものかという軸を設定した。両者を厳密に区分することは困難であるが、【表現する 伝える】【理解する わかる】【身体の動き】【教科学習】【他者とかかわる】を「表面に出やすいもの」として捉え、【認知的側面】【自信や意欲】を「表面に出にくいもの」として捉えて整理することとした。

「表面に出やすいもの」のうち、【表現する 伝える】と【理解する わかる】の両者はことばの遅れの指導の中心になるもので、相互に密接に関係するものとして捉えた。

【身体の動き】は【表現する 伝える】際に欠かせないものである。音声言語を話すことそのものも身体の動きと捉えることができるし、伝える手段は音声言語に限らず身体的な表現もある。また、不器用さや粗大運動の困難さがあるために伝えることが困難である場合もある。こうしたことから【身体の動き】は【表現する 伝える】と重なり合うものと考えた。

「表面に出にくいもの」のうち【自信や意欲】は子どもの活動の基本となる重要な要素

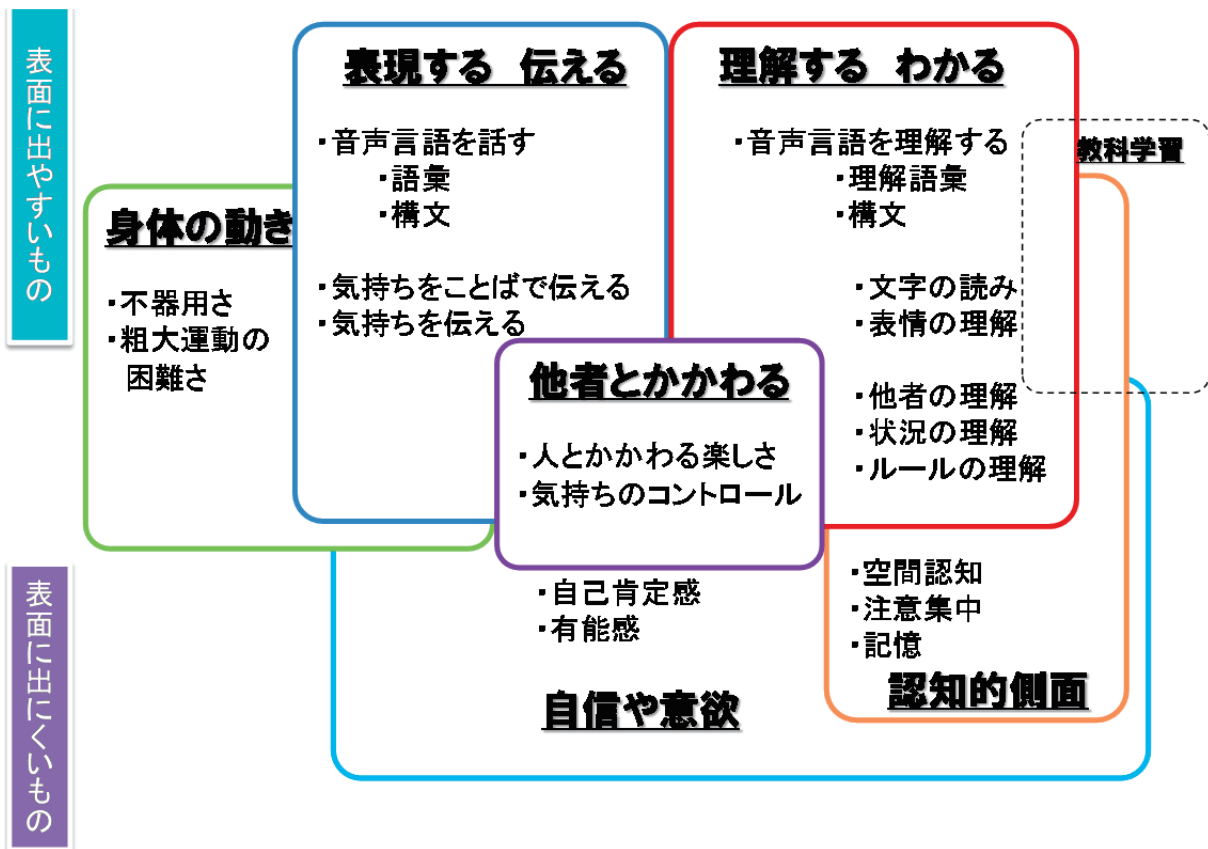


図4-1 ワークショップで収集したことばの遅れを主訴とする子どもへの指導内容・方法

でありここで取り上げた全ての項目の背景にあるものと捉えた。また、【認知的側面】は、あまり表面に出ることはないが【理解する わかる】ために重要である。また、【教科学習】を行う際の基礎となるものである。そこで、【認知的側面】と【理解する わかる】、【教科学習】が重なり合うものと考えた。

以上述べた5項目と全て関係しあうのが【他者とかかわる】ことである。他者とかかわることを指導するためには、ここで取り上げた5項目全ての要素を検討し、指導することが必要であると考えられた。

6. 学年別の記述内容の整理

上記5で整理した8項目のうち【その他】を除く7項目について、3歳児から中学校1年生まで学年別の回答件数を計数し、その割合を示したものが図4-2である。

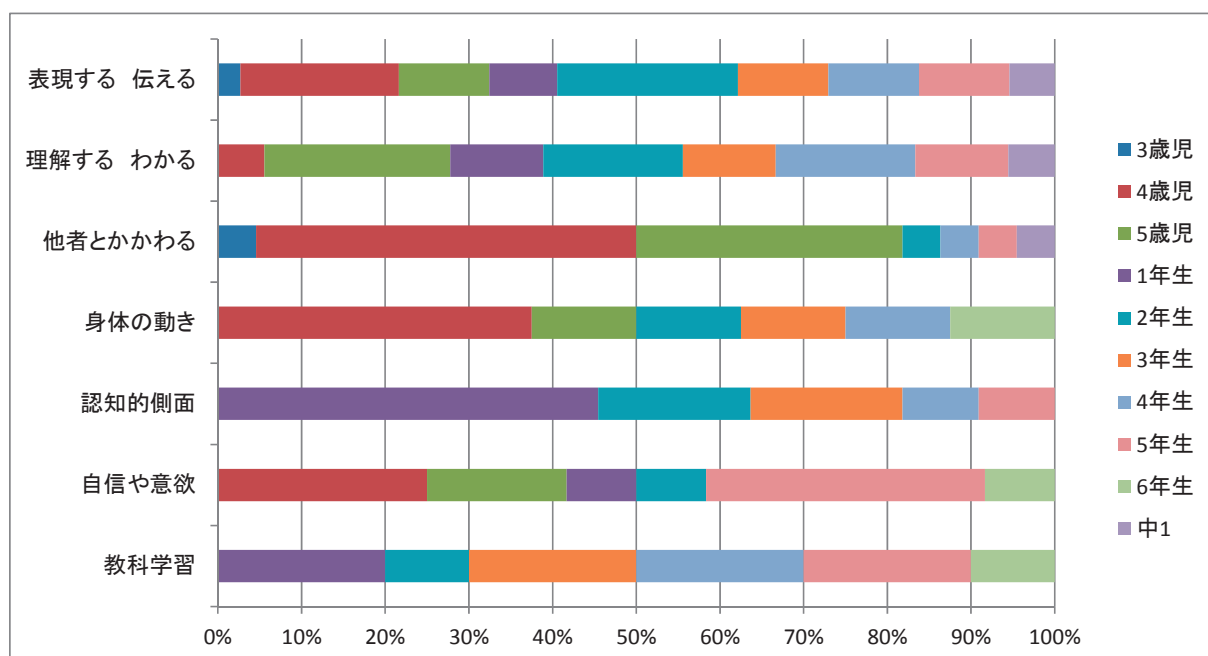


図4-2 学年別の記述件数の割合

7項目のうち、【表現する 伝える】は全学年で、【理解する わかる】は4歳児から中学校1年生までで、【自信や意欲】は4歳児から6年生まで（3年生を除く）で回答されており、これらは、多くの学年で指導されていることがわかった。

【他者とかかわる】は幼児の3学年での回答が8割、【身体の動き】は幼児の3学年での回答が5割程度あり、幼児期での指導が多いことがわかった。【認知的側面】は1年生での回答が多いが、通常の学級において文字や数の指導が始まるためと考えられる。【教科学習】は、学齢期の全学年で指導されていた。

7. 自立活動の内容との関係

ことばの教室、即ち言語障害特別支援学級と通級指導教室（言語障害）の指導内容は、

「障害に応じた特別の指導」であり、それは「特別支援学校における自立活動に相当する内容を有する指導」¹⁾とされている。ことばの教室の担当者は自立活動の内容を踏まえて、指導を行っているものと考えられるが、ワークショップにおけるワークシートでは、指導内容・方法と自立活動との関係について直接的には尋ねてはいない。

そこで、自立活動の6区分 26 項目の各項目について、特別支援学校学習指導要領解説自立活動編²⁾の内容と、本研究で整理したことばの遅れに対する指導内容・方法とを照合した。その結果、「1. 健康の保持」を除く5区分 15 項目において本研究で整理した指導内容・方法は内容的に一致した（本研究で整理した「教科学習」については自立活動の内容に直接関係しないため検討からはずした）。それらを整理したものが表4-3である。

表4-3 自立活動と本研究で整理した指導内容・方法との関係

自立活動の区分と項目	本研究で整理した指導内容・方法
1. 健康の保持	該当無し
2. 心理的な安定	
(1)情緒の安定に関する事。	「自信や意欲」「他者とかかわる」
(2)状況の理解と変化への対応に関する事。	「理解する わかる」
(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲の向上に関する事。	「自信や意欲」
3. 人間関係の形成	
(1)他者とかかわりの基礎に関する事。	「自信や意欲」「他者とかかわる」
(2)他者の意図や感情の理解に関する事。	「理解する わかる」
(3)自己の理解と行動の調整に関する事。	「理解する わかる」「自信や意欲」
(4)集団への参加の基礎に関する事。	「理解する わかる」
4. 環境の把握	
(2)感覚や認知の特性への対応に関する事。	「認知的側面」
(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事。	「認知的側面」
5. 身体の動き	
(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事。	「身体の動き」
(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事。	「身体の動き」
6. コミュニケーション	
(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事。	「他者とかかわる」
(2)言語の受容と表出に関する事。	「理解する わかる」「表現する 伝える」
(3)言語の形成と活用に関する事。	「理解する わかる」「他者とかかわる」
(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事。	「理解する わかる」「他者とかかわる」

「2. 心理的な安定」や「3. 人間関係の形成」に該当するものとして、「理解する わかる」「自信や意欲」「他者とかかわる」が挙げられた。「4. 環境の把握」に該当するものとして「認知的側面」が挙げられた。「5. 身体の動き」には本研究でも「身体の動き」として整理したものが該当した。「6. コミュニケーション」に該当するものとして「表現する 伝える」「理解する わかる」「他者とかかわる」が挙げられた。

以上からことばの教室で行われていることばの遅れに関する指導内容・方法はいずれも自立活動に相当する内容を有していることが確認できた。

<文 献>

- 1) 文部科学省(2012). 改訂第2版 通級による指導の手引き—解説とQ&A—.
- 2) 文部科学省(2009). 特別支援学校学習指導要領解説自立活動編.